

蘇南通信



防災訓練

2009 年度 5 号 09.12.03 〒399-5301 木曾郡南木曾町読書 2937-45 TEL0264(57)2063 FAX(57)1009

URL <http://www.nagano-c.ed.jp/sonan-hs/>

E-mail sonan-hs@nagano-c.ed.jp

町中に歌声響く! 第44回合唱コンクール

10月27日、南木曾町社会体育館にて44回目の合唱コンクールが行われました。生徒たちは一ヶ月も前から放課後や朝の時間に練習を重ねこの日に臨みました。それぞれのクラスが、それぞれの思いを歌にのせて素晴らしい合唱を披露してくれましたが、中でも圧巻は三年生。歌声も姿勢も良くクラスもまとまっていて、本当に心地よい合唱でした。優勝曲は卒業の歌として有名な曲。彼らはこれまでの楽しかった日々を思い描きながら、一方で残り少ない高校生活への思いを感じながら、思い思いにこの歌を歌っているようでした。

あの一ヶ月間、学校中に響いた合唱が、学校の雰囲気をもた一つ良いものにしてくれたに違いありません。



| | | |
|------|------|-----------|
| 優勝 | 3年B組 | 「旅立ちの日に」 |
| 2位 | 3年A組 | 「HEIWAの鐘」 |
| 3位 | 3年C組 | 「君と見た海」 |
| 指揮者賞 | 田口紗衣 | |

そな はじめ

ロボコン SONA - 3年連続全国 1回戦突破!!



全国大会会場の横浜文化体育館で

10月10日、下諏訪で行われたROBOCON IN 信州で、電気科3年 課題研究ロボコン班が製作したマシンが3位に入賞し、全国大会出場を果たしました。全国大会は11月15日に神奈川県で行われ、131チームが参加しました。強豪チームの集まる中35位と健闘しましたが、惜しくも3回戦進出はなりません。

『ロボットコンテストに参加して』

3年 高田典宜

僕たちは課題研究でロボットを作りに取り組みました。6月からロボットの設計をし、製作に入りました。初めのうちは色々な工作機械を使い加工するのが難しく、苦労したときもありました。ですが、みんな頑張って、県大会までにロボットが完成するように合宿を行ったり、終電まで残ったりしました。その甲斐あって県大会では3位に入賞することができました。残念ながら、もう一台のロボットは敗退してしまいましたが、全国大会へ向けて全力でバックアップをしてくれました。

全国へ出場するロボットは今まで付いていた転倒防止装置を取り外したり、必要のない部品を外したりして軽量化しました。また、衝撃に耐えられるよう、ボディも再加工しました。

全国大会では実力が出せず、35位という結果に終わってしまいましたが、良い経験をすることができました。ありがとうございました。



まさかりに見立てたハンマーを移動させる



ロボット製作の様子

大会結果

ROBOCON IN 信州

【SONA -】準決勝進出 3位 <松瀬・伊藤・大津・高田・宮内> **全国大会出場!!**

【SONA 次郎】1回戦敗退 <生駒・齋藤・長瀬・和田>

【CLOWN】1回戦敗退 <太田・村仲 (ほか電子技術部)>

第17回全国高等学校ロボット競技大会

【SONA -】1回戦 27位 2回戦進出

2回戦 35位 敗退



二年生六十七名は、十一月十日から十三日まで三泊四日で沖縄に修学旅行に行ってきました。初日は、平和祈念公園・ひめゆり平和祈念資料館見学、ガマ追体験などの平和学習を行い、二日目はマリンスポーツや美ら海水族館などで沖縄の海を満喫。三日目はクラス毎に分かれてそれぞれの沖縄を楽しみました。最終日は世界遺産の首里城やエイサー見学でしめくくり、とても充実した旅行となりました。



平和学習で誓った平和

平和祈念公園には「平和の礎」と呼ばれる戦争での死者を刻銘してある石がある。長野県の死者も千人を超えており、沖縄戦で多くの人が亡くなっていると知り、シヨックを受けた。ひめゆり平和祈念資料館には、戦争中の体験が綴られた日記があり、それを読んだとき、改めて沖縄で起こった戦争の悲惨さや苦しさを感じた。

当時の沖縄の日常が今では非日常となり、その過去を伝える人々も少なくなってきた。今、この平和を一時のものとして守り続けなければならぬと、沖縄へ行って僕は思った。

川阪明彦

轟壕内で戦争を感じる

轟壕では、実際に壕の中に入っただけで当時の人々の生活について学びました。中は狭く湿度も高いうえ暗いので、この中にたくさんの方が入っていたなんて信じられませんでした。



こんな生活を毎日過ごすなんて耐えられません。どうして、一般人がこんな思いをする必要があったのでしょうか。

宮戸萌香

平和講話で感じた幸せ

講話を聴いて、命・家族・友達・学校・家の大切さを改めて感じました。楽しめる友達がいる、帰る家がある、いろいろな学べる学校がある。「こんな幸せなことないな。」と思いました。

沖縄の人は本当に強くていい人だと思いました。沖縄をどうにかしてあげられるのは、今の若い人たちだと思います。あと、悲しい思い出をわざわざ話してくれた新里さんや、他の戦争でなくなった人々に感謝しながら、これから一日一日を過ごしたいと思いました。

島崎沙希

とくに楽しかったこと

一つ目は、マリンスポーツ体験だ。ビーチに着くとテンションは最高潮に達し、体験が始まる前から既に楽しかった。

二つ目は、屋我地島でのカヌー体験だ。男女ペアになり、乗り方や漕ぎ方を習って乗った。少し離れた島まで行ったりレジャーをしたり、とても楽しかった。これ以外にも語り尽くせない程楽しいことがたくさんあった。最高の思い出を、僕は一生大切にしておきたい。

岩田直樹

琉球衣装の着付けを体験

琉球村で琉球衣装の着付けを体験しました。着るだけのプランが、サービスで髪の毛までセットしてくれました。お土産になるものではないけれど、とても貴重な体験でした。

高樋いくみ

